

寒地水圏セミナー「寒地水循環の観測・モデリングと水管理」を開催しました

水環境保全チーム

北半球の中高緯度に広がる雪氷寒冷圏における水管理に関する先端的な課題について議論するため、水災害・リスクマネジメント国際センター(ICCHARM)の小池俊雄センター長を講師に招いて、令和元年12月4日に寒地土木研究所講堂で寒地水圏セミナーを開催しました。

小池センター長は東京大学、長岡技術科学大学で主に雪氷水文に関連する研究に長く携わり、国際的に活躍されています。平成26年10月からは、ICCHARMのセンター長として土木研究所の研究活動を指導されています。また、平成30年4月からは国土交通省の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」の座長を務められ、令和元年10月に発表された「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言の取りまとめに御尽力されています。

今回のセミナーは平成27年6月に小池センター長を招いて開催した寒地水圏セミナー「雪氷寒冷圏の水循環の統合的な理解と管理を目指して」に続いての開催です。今回は、気候変動に関する最近の話題を含めて積雪融雪機構に関するモデリングと水管理に関する講演となりました。

講演では、高度経済成長期前からの従前の治水政策の策定にかかる内容から始まり、気候変動予測のダウンスケーリング結果によるアンサンブル予測を活用した新たな治水計画策定の手法に関する最新のお話や、ランドサット導入初期からの衛星を使った積雪観測や現地での積雪断面観測の際に5m以上の雪を掘った苦労話から、最新の雪氷水循環の観測やモデル化に関する研究成果までを幅広くかつ深い内容でお話しされました。その中で、山岳域の降雪量を正確に観測することは困難であり、精緻なモデルが構築できた現在では、降雪量を逆推定する手法が有効であるとの興味深いお話もありました。講演の最後に、詳細な気象予測と精緻な水循環モデルの開発により、利水ダムなどの水管理に新しい手法を提案できるなど、社会実装の可能性を示されました。

本セミナーには、国土交通省北海道開発局、北海道庁で治水計画や水管理に携わる職員並びに、大学、コ

ンサルタント等で気候変動に関連した研究等を行っている学生、技術者等57名が参加し、熱心に聴講・議論していました。

(文責：谷瀬 敦)



写真-1 小池俊雄ICCHARMセンター長



写真-2 講演会会場の様子



写真-3 質疑応答の様子